

「日本人論」② 教案

〔前回の復習〕

〔今回の授業のねらい〕

日本の若者の変化は、留学生にとっては「古き良き時代の日本」や、「日本人論」①で論じたステレオタイプの日本理解からすると、不思議に写るであろう。しかし、現在の日本の若者の特徴はある意味で、留学生にとっても共感の持てる部分があるのではないだろうか。

大阪YMCAが120周年および125周年の際に招いたお二人の講師の講演内容から、現代の日本の若者の特徴を論じ、留学生との共通点や違いを考える機会とする。

〔解説と授業の展開〕

最近の日本の若者は

①渡辺和子シスターの言葉より（ノートルダム清心学園理事長、大阪YMCA120周年記念講演、2002年）

今の若者に欠けていると思うこと（今の世の中は、便利、安易、スピーディー→一人でもやっていける。でも・・・）

i) 待つ（我慢する、自分にブレーキをかける）

ii) 思いやる（愛する、許す）

iii) 自信を持って生きる（私は私でいいんだ）

真の人格（生まれたままでは人格として育っていない）

自ら判断し、判断に基づいて決断（実行）し、決断（実行）したことに責任を持つ

生まれたまま（付和雷同）では単なる人間であって人格とは言いがたい

今の学生の大きな悩みの一つに「人と比べて自分は劣っている。自分に自信が持てない」

→自分への信頼と経験から来る自信に基づいたプライドではなく、偽りのプライドしか持てない

*留学生にとっては、i) 待つ、ii) 思いやる、が自分達にとっても欠けている点であることの自覚は容易である。しかし、iii) の自信を持って生きる、に関しては、理解しがたいようである。留学生の周りにいる日本人学生や日本の若者が、皆が皆ではないにせよ、多くそのことを感じていることに驚きを隠せない。

②速水敏彦教授の言葉より（名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授、大阪YMCA 125周年記念講演、2007年）

「他人を見下す若者たち」・・・自分以外はバカの時代

特徴

i) 偽りのプライドと**傲慢さ**・・・他人との比較においてしかもものを考えることが出来ない。しかも、その比較の仕方は、事実に基づくものでなく、イメージの中で自分を優れたものと勝手に思い込むことによって、相手を見下すのである。渡辺和子氏が言われた、他者との比較において自分に自信が持てない現象のまさに裏返しである。

ii) 自分の回りしか見えない**視野の狭さ**・・・いわゆる世間に目を向けることがない。世情に関する関心も薄い。個人的な関心事のみで、自分の生活圏が組み立てられている。

iii) 注意されると逆切れする**精神の弱さ**・・・上記のような理由から、客観的に物事を判断する習慣を持たないがゆえに、また困難を乗り越えて培われたタフネスを身に付けていないがゆえに、簡単に逆切れする精神面の弱さがある。

*留学生にとっても i) 傲慢さ、ii) 視野の狭さ、については自らのこととして実感できることである。しかし、iii) 精神の弱さ、は理解が難しい。

このような若者の変化は、どこに原因があり、ある部分では日本固有であり、ある部分では世界共通であることを共に考える。

個人的には、第二次世界大戦後の価値観の変容、その後の経済発展に伴う価値観の変容等が原因していると考えている。

[授業のまとめ]

[参考文献]

- ・ 大阪YMCA 120周年記念講演
- ・ 大阪YMCA 125周年記念講演

[レジュメ]

- ・ 添付

「日本人論」②レジュメ

〔前回の復習〕

〔本日の授業内容〕

最近の日本の若者は

〔授業のまとめ〕

